

委14-1

第13回宇宙開発委員会(定例会議)

議事要旨(案)

1. 日時 昭和55年7月9日(水) 午前10時~11時
2. 場所 宇宙開発委員会会議室
3. 議題 M-3Sロケット1号機の打上げ結果の評価について(報告)

4. 資料

委13-1 第12回宇宙開発委員会(定例会議)議事要旨(案)

委13-2 M-3Sロケット1号機の打上げ結果の評価について(報告)

5. 出席者

宇宙開発委員会委員長代理	吉 識 雅 夫
“ 委員	齋 藤 成 文
“ “	八 藤 東 禧

説明者

宇宙開発委員会第四部会長	佐 貫 亦 男
関係省庁職員等	
科学技術庁研究調整局長	勝 谷 保
“ 長官官房審議官	神 津 信 男
文部省学術国際局審議官	大 崎 仁
	(代理: 横 山)
通商産業省機械情報産業局次長	小 長 啓 一
	(代理: 吉 田)

郵政省電波監理局審議官

三 浦 一 郎

(代理: 飯 田)

事務局

科学技術庁研究調整局宇宙企画課長 佐々木 寿 康

“ “ 宇宙国際課長 佐 藤 允 克

他

6. 議事

(1) 前回議事要旨

第12回宇宙開発委員会(定例会議)議事要旨案が確認された。

(2) M-3Sロケット1号機の打上げ結果の評価について

(宇宙開発委員会第四部会報告)

佐貫第四部会長より「いくつかの不具合点はみられたが、これらはすべて技術的に解決できるものであり、今回の実験は多くの技術的・科学的成果が得られる意義あるものであった。」との総評の後資料委13-2に基づき説明が行われ、以下の質疑応答が行われた。

八藤: 9頁のその他の問題点の中で、熱及び音響環境に対する検討を行う必要があるとしているが、これは「設計段階において」ということか。

佐貫: そうである。

八藤: 三次以上の曲げ振動については設計段階で考慮しなかつたのか。

佐貫: 当然考慮すべきことであつたが、第1段の推力方向制御は初めてのことであつたため、検討が不十分であつたということである。

八藤: 検討を行いたくとも資金的事情によりできなかつた

のか。

佐貫： この検討は費用をかけなくてもできることであり、
事態を楽観的に見たため設計段階における必要な検討
が足りなかつたのだと思う。